

公益社団法人都城青年会議所
2015年度 理事長所信

第52代理事長 瀬尾 典史

【スローガン】

「春 風 秋 霜」

未来のために強く在れ！

【基本方針】

- 1、己自身を知る人間力の向上
- 2、未来を見据えた地域活性化の創造
- 3、公益社団法人としての自覚とプライドを持った組織運営の強化
- 4、創始の精神を継承した新LOM改革に向けた組織づくり
- 5、会員拡大30名の必達

【はじめに】

2015年、我々は都城青年会議所創立52周年を迎えます。2013年に都城青年会議所は創立50周年を迎え、これまでの先人達が築いてこられた活動や市民の皆様の支えに深く感謝し、また新たな100周年に向けて継承するという強い気持ちを確認しました。

今日の我々の活動があるのは51年に渡る長い時間を自らの価値ある青年期をJC運動に費やしてこられた先輩方の信用の積み重ねがあって成り立っていることを忘れてはなりません。そしてもう一つ忘れてはならないのは、我々の活動は身近にいる方や職場の皆さまの支えと地域の皆さまのご理解があって初めて事を成すことができるということです。

50周年を過ぎた今、時代が目まぐるしく変化していく中で、我々の使命は、明るい豊かな社会を創ることです。若者の唯一の特権は「情熱」であると確信します。まちの未来をいろいろ語る前に自分はきちんと親孝行できているのか。経済がどうだ不況がどうだと語る前に自分の会社の5年先のビジョンが見えているのか。一番身近にいる子どもにこのまちに生まれて本当によかったと思ってもらいたいと考える前にあなたの背中を見て子ども

が未来を明るく描けているのだろうか。我々がどこの団体よりも最も必要とされる組織となるためにはJAYCEEが三信条を基に自分達が肌で感じた事を己のものとし、知識と説得力を持った一人ひとりにならなければなりません。2015年、まずは自分づくりからまちづくりを考えてみる1年にしていまいりましょう。

【公益社団法人としての自覚とプライドを持った組織運営の強化】

時代の変化による法人改革制度の移行に伴い、2012年我々は公益社団法人として新たなスタートを切り、今年で4年目を迎えました。しかし、どんなに法人改革に従い公益社団法人になったとしても我々の行ってきた活動に変わりはないはず。昔も今も自分達のまちを少しでもよくしようという強い思いも変わらないはず。公益社団法人格を取得し、4年目を迎えた今だからこそ、この取得した公益という看板に惑わされる事なく、我々がより責任ある団体としてしっかり公益社団法人としての負託と信頼に答えていく真の姿を地域の皆さまへ発信していかなければなりません。また、我々がしっかりと活動を市民の皆さまにお伝えするには、そのようなコンプライアンスをしっかりと遵守できる強い組織運営が必要です。一人ひとりが公益社団法人としてのプライドを持ち価値ある組織、頼りにされる組織の構築を進めていかなければなりません。

【より身近な組織であるために】

スピーディーに進化していくIT化社会の中で、現在どんな情報でも正確かつリアルタイムに取得する事ができます。我々の運動や活動を多くの人に情報を発信していくには各種メディアを有効に活用し、時代に合ったツールや全てのネットワークを正確かつ迅速に使い、生の声を市民の皆さまに発信していく事が大切です。その結果、都城圏域の皆さまに都城青年会議所を身近に感じていただき、我々の姿勢を示すことができると考えます。青年会議所運動の本質、「JCはいったい誰のための、何のための運動なのか」という基本軸に立ち返り、都城青年会議所とはどんな団体なのか、そしてどんな事業を行っているのか、今後どんな都城を創りあげていくのか、青年だからこそ出来る気概と情熱を持った我々でしか出来ない姿勢を発信することにより都城青年会議所への理解や協力も深まると確信します。

【己自信を知る人間力の向上】

「やさしくあるために強くなる」これは私がとても好きな言葉です。人はとても弱い生き物です。忙しくなったり自分のキャパを超えようとした時に必ず余裕がなくなります。余裕が無くなると確実に周りが見えなくなり、人に厳しくなりがちです。自分自身をしっかりと見つめ直し、常に余裕を持ち、何事にも動じず、落ち着いた判断ができるためには、まずは自分自身が強くないといけません。JCの三信条を通し、修練を積み重ね、己自身の能力を磨き、奉仕を通して友情を深めることによって全てのことに自身が溢れる余裕

をもった行動や判断が出来るようにならなくてはなりません。また、会社においても家庭においても必ず人を引っ張っていくリーダーが必要です。その中で最も必要なのはぶれない自分を作る事です。軸のぶれないリーダーには必ず人はついてきます。それだけではなくたくさんの共感者や応援団がいないといけません。相手に共感を示すのは自分自身の行動からしか始まりません。JCにおいても同じです。どんなにいい文章を書こうが協力者がいなければ事業は成功に至りません。JCでは議案書を通し事業の計画性を学ぶことができます。指導者としてのリーダーシップも学ぶことが出来ます。確かに、JCという組織はある一定の方々にはとても知られている格式高い団体です。しかし一方では残念ながら良く思われていない方もいるのも現状です。我々が最も必要とされる団体となり続けるためには、そういった声を真摯に受け止めなければなりません。我々の行う事業は間違いなく明るい豊かな社会創りです。我々の運動や活動をしっかり地域に広げるためには、まずは、会員一人ひとりが創始の精神に立ち返り、JCという組織の素晴らしさを伝えていかななくてはなりません。周りの人に頼られる組織になるためには、まずは身近な人から頼られる人間にならないといけません。そのためには、自分自身をしっかりと見つめ直し、確かな知識と見解を持った、ぶれない自分を作りあげることから始めないといけません。過去の自分をしっかりと見つめ直し、これからの自分のためにしっかりと自分自身を律しながら、JC活動を通し、JC三信条をしっかりと体で感じ取り、そして自分のものとし、確かな知識と見解を持ち、誰がどこの場所に行っても自信を持った自分であること。それこそが真のリーダーシップに繋がると確信します。

【自分自身の成長が人を説得する団体となる】

今の自分自身を振り返ってください。JAYCEEの中にもJC活動を一生懸命頑張っている人、頑張っていない人といいます。その中にも2つあると感じます。JC活動が出来るのにしていない人、JC活動をしたいのに何らかの事情で出来ない人とあるのが現状です。JCは学びの場です。「JCしかない時代からJCもある時代」という言葉がありますが、JCが他の組織と違うのは20歳から40歳までというリミットがあることです。満40歳を迎えたら必ず卒業が訪れます。それ故にJCは絶対に若さを失うことなく常に希望に溢れ、未来に向かった前進ができるのです。そして、40歳までに自分自身をどう成長させるのか。そして自分がまちのためにどう貢献できるのか。そして学んだ事をどう会社や家庭にフィードバックするのが非常に大切です。今までの自分を振り返り、未来の自分のために少し背伸びをし、昨日の自分より少しずつでも成長できる自分を作る。一人ひとりがその意識を心に持ち日々精進する。そういった強いJAYCEEが増えてくる事で、自とJCのブランディングも高まり、JCが地域のどの団体よりも最も必要とされる組織になると確信します。

【真の経営者になるために】

今の現状の中で、日々の時間に追われ、一日一日を過ごしている中で、自社の2年先5年先のビジョンを明確にしている人は何人いるのでしょうか？私は、JCという組織の役割の1つに、青年経済人を自負する若者を地域の指導者として育成することがあると考えています。それは、JCに会員を送り出している企業が、最も期待していることではないかと感じます。自分達のまちを自分達で作るためにはJC活動の機軸ともなる自社をしっかりと繁栄させることが必要です。自分達が今JC活動を出来ているのは支えてくれている社員の志があってこそ成り立っています。会社は自分のものではありません。それを支えてくれる社員、そして、その社員には、家族がいる事を絶対に忘れてはなりません。グローバル化経済の中で、日々目まぐるしく変化する日本経済では政府にとっても、企業にとっても、現在の景気状況や今後の景気動向を正確かつ早く掴むことは、大変重要です。特に景気判断を素早く且つ客観的に捉え、政策に速やかに反映することが不可欠です。企業にとっても、素早い的確な判断を求められる経営活動の重要な要素となっています。経営には戦略と戦術があります。戦術は競争に勝つための方策であり、戦略は経営の目標を達成するための長期的な戦略です。目先のことだけを考え、ライバルに勝つための経営では将来的にお客様に必要とされる会社にはなりません。我が会社をしっかりと地域に定着させ、そして地域から必要とされる会社になるためにはこの両方の感覚を持ち合わせた考えを青年経済人である我々が持たなければなりません。一人ひとりが自分の会社を見つめ直し、そしてそれを支える社員、そしてその家族のことを考え、身近な方から頼りにされる会社であり経営者となる道作りをJCを通じ自分達がしっかりと学んだことを会社にフィードバックさせる流れが重要だと考えます。また自分達の将来だけでなく、今後の都城圏域を支える企業人の育成もしていかないといけないと考えます。この地域で活動する我々から新しい経営者の発掘もしていくことも必要です。自分達の愛する都城圏域が常に発展していくために、まずは人が、企業が、元気であるとともに、出る杭を打つような考えでなく、人が人を支えるような企業人を育成したいと考えます。

【未来を担う子どもに必要なこと】

我々の幼い頃は時間さえあれば季節を問わずに外で元気よく友達と遊んだ記憶があります。最近の子ども達は、時代の変化によって調べたいことはネットで調べ、会話もインターネットを通じて会話するという風に、人と人の本当の繋がりが薄くなってきている感じがします。また、是非はともかくとして、大人の目の届かないところで、子どもなりに危険にチャレンジし、社会における自分の関わり方を学び、自身の安全に対する嗅覚を成長させておりました。上の子が下の子の面倒を見る、下の子はそれに対し、敬意を持って接し、学ぶということが自然に行われておりました。近年少子化によって、子ども達自身の判断でそれらを成し遂げるということが、環境的に非常に困難な状況になっております。そして、昔から代々受け継がれてきた伝承が途切れつつあります。その結果、現在の子どもたちは平均して、コミュニケーションをとることが苦手、自分自身の判断で物事に立ち

向かうことが苦手になりつつあります。また、何が安全で、何が危険であるかという判断能力が、昔に比べ低下しています。対人関係構築が苦手な子どもが増えてきつつあるのは周知の事実です。また悪いことをした時には、親でもなく近所の大人にたまにはげんこつをもらったり注意を受けたりと、我が子のようにいろんなことを教えてくれた気がします。現在、少し悪いことをしても見て見ぬふりをしている大人が多い気がするのは私だけでしょうか？地域の子どものをしっかり地域で育てる環境が必要だと考えます。さらには、このまちの地の利を活かした子ども達に向けての経験も不足していると感じます。将来の日本を背負う子ども達に今必要なのは、全てのことをネットで調べる環境ではなく、自分達の五感を使って感じる事ができる経験が必要だと考えます。

第9回目となるきりしまんだジュニアトライアスロン大会も年々参加者も増え、賑わいを増してきています。若いからこそできる経験をまずは我々から発信し、いろんな困難に立ち向かい、達成感を味わう。そして次のステップに挑戦する勇気を与えられるのは私達しかいないと考えます。今後の発展、そして都城青年会議所の今後の新たな挑戦のためにも、地域のためにも新たな方向性を模索する必要があると感じます。

【未来を見据えた地域活性化の創造】

まちづくりは人づくりという言葉があります。我々の住む都城圏域には多くのまちづくりに関わる行事やまつりがあります。その一つひとつには思いがあり、そしてその地域それぞれの歴史、伝統を引き継いでこられています。我々の事業も同じです。JC宣言の中に「志を同じうするもの相集い」という言葉がありますが、この言葉は我々だけの言葉だけではないと感じます。まつりを主催する団体のそれぞれの方の思いは同じです。自分達の個と個の結びつきも大事ですが、組織と組織の交流も積極的に行い、そしてお互いに参加をし、一緒に我々の故郷を盛り上げる事も大切です。我々JCがオピニオンリーダーとなり、地域のNEEDSをしっかりと収集し、みらいを見据えた地域活性化のために行動する必要があります。

また2012年に作成した我々の中長期的な計画である「新5ヵ年計画アクションプラン2012」においても、地域の重要資源でもある「ひと・まち・歴史」に対する現状のNEEDSをしっかりと調査し、しっかりとベクトルの確認をし、みらいの明るい都城の実現に向けて勇気を持って、行動を起こしていく必要があります。

更には、2012年我々は社団法人格から公益社団法人格へと変わり、今年度4年目を向かえます。それに伴い我々はいろいろな公益事業にチャレンジしてまいりました。この公益社団法人を続けるには総事業費の50%以上の公益事業を行わなければなりません。もちろん我々の行っている事業は明るい豊かな社会づくりでもありますが、総会員数が軒並み減少し、100人を割る中で、予算の圧迫も加わり予定者段階から予算を組むに当たり、毎年公益のこの事業費の支出に苦勞しています。もちろん、我々が考えなければならぬのは公益という看板を守るために事業を行うのではなく、自分達のまちは自分達で作

るといふ信念の基、地域のNEEDSをしっかりと調査し、これからのみらいに向けての行動や活動をしていくことです。真の公益社団法人として、我々の運動をさらに地域に広げるためにも、今後残される同志のためにも大きな公益事業の柱を作らなければなりません。この大きな柱を作るべく、しっかりと今後の公益社団法人としての我々の指針を探求していかねばなりません。

【拡大の重要性】

現代の日本は、加速度的ともいえる高齢化社会となっており現状日本の人口に占める65歳以上の方の割合が4人に1人となってきております。また晩婚化であったり出生率の低下もすさまじい勢いで進んでいます。都城青年会議所においてもこれは関係していると感じます。今後5年でほとんどの中核の会員が入れ替わる中で会員拡大も必要です。このまま推移すると3年後には会員が50名を下回ります。数も質も大切ですが、我々の運動の素晴らしさを伝えるには、少しでも多くの同志が必要です。今活動している会員一人ひとりが、この現状を理解し、危機感をしっかりと感じるとともに、JCの楽しさ、素晴らしさを己の言葉で伝えることのできるJAYCEEにならなければなりません。そして、これは1つの担当委員会だけが考えるだけでなく、全員が一丸となって同志の拡大をしていかなければなりません。そのためには一人ひとりが自分を律し自分達の身の回りの方々から頼られる存在にならないといけません。

【創始の精神を継承した新LOM改革に向けた組織づくり】

【魅力あるJCであり続けるために】

目まぐるしく変化し、市民の皆さまのNEEDSも変化していく中、JCには「変えるべきもの」と「変えてはならないもの」があります。この都城青年会議所が51年も廃れることなく大きなLOMとして残っているのは、ずっと崩していない伝統があるはずです。先輩からの言葉の中にどこに向かってもいいけれども線路の幅は変えてはいけないという言葉にそのヒントがあると感じます。今日の我々の活動があるのは、自らの価値ある青年期をJC運動に費やしてこられた、先輩方の信用の積み重ねがあつてからこそ成り立っているということを忘れてはなりません。そしてもう一つ忘れてならないのは身近にいる家族や会社の支えがあつて、今の自分が活動できているのです。NEEDSに応えるために、変えるところは変え、変えてはいけないところはしっかり継承する。この認識の下、必要であれば多少の痛みを伴うことも覚悟して改革を貫き通すという強さが求められるのではないのでしょうか。我々は青年です。だからこそ保守的な姿勢に陥ることなく、勇気を持って、今こそ改革を進める時期がきていることを考えていきます。近年LOMの中でも、それ以外でも、我々が先輩から学んできたことが薄れつつある気がします。人が話をしている時は黙ってしっかり話を聞く。目上の方を敬う。そんな当たり前のことを当たり前にできるJAYCEEでないと、どんなに良いことを話

そうと、誰も見向きもしません。自らの行動は自らの背中です。その為一人ひとりが強靱な心と知識を持ち、何事にもぶれない自分を作りあげないといけません。2015年度、都城青年会議所は52年目を迎えます。JCの魅力とは一体何なのか。JCでしか感じる事の出来ない三信条を五感で感じ「志を同じうする者、相集い、力を合わせ」を共に学び、故郷のためにJAYCEEとして今、何が必要なかを心から考え、仲間と共に行動し、己のものとなる活動をするのが今の我々に必要だと感じます。また、我々の団体が最も必要とされる団体となるために、自分自身が成長することはもちろん、それを支える身近な方達にも素晴らしさや楽しさを共感できる事をするともに感謝をお伝えする場も必要だと感じます。

【結びに】

人生はたった1回しかありません。だからこそ、この時代を生きる我々にしか出来ないことがあると思います。一青年経済人、一大人としてこれからの価値ある青年期をこのJCで過ごすのであれば、一人ひとりがJCを通し、多くの経験から知識と説得力を増す。過去の自分をしっかり振り返りこれからのみらいに向けての確かな自分を作り出す。それこそが我々に求められていることでもあります。この都城青年会議所メンバーとして、先輩方が築きあげられてきた誇りの上に今日の活動が出来ていることを自覚し、これから続く都城青年会議所のために我々がしっかりとした後姿を見せ続けられる自分を作りあげなければなりません。一人ひとりがそれを実践することにより、身近な方からの信頼も増し、JCがどの団体よりも最も必要とされ、この都城が明るく元気なまちになり続けると確信します。一度しかないこの人生の大切な20代、30代を逃げずに常に自分自身に背伸びをしながら楽しく価値ある1年を過ごしていきましょう！

「JC FOR JAYCEE! JAYCEE FOR JC!」